

平成17年度知床国立公園利用適正化検討会議(第1回)

議事概要

平成17年7月4日 15:00～17:00
釧路地方合同庁舎5階 第一会議室

1. あいさつ 環境省東北北海道地区自然保護事務所長

2. 議事

(1) 「知床半島中央部地区利用適正化基本計画」の検討

「平成17年度知床国立公園利用適正化検討調査の概要」事務局説明

「知床半島中央部地区利用適正化基本計画」(案) 事務局説明

「知床国立公園中央部地区における登山道以外のバックカントリー利用状況」知床財団説明

【質疑応答】

- (座長) 概要について質問、意見は？次に基本計画(案)について、最初に作成の目的、背景、対象区域、基本方針まで質問、意見は？
- (小林委員) P7の下から2行目。植生への影響に「土壌」も書き加えてほしい。
- (中易委員) P7の自然の適正な利用のところに関係機関が連携協力～と書いてあり、同ページの下から3行目に植生への影響をモニタリングと書いてあるが、これと前者は別か？
- (事務局) 特に登山道が痛みやすいので別に書いたということ。
- (中易委員) 普及啓発に「努める」、「行う」と分けているが、と書き方は統一した方がいい。P8に地域資源の有効活用などについて～と書かれているが、これは公園の利用とどう整理したらいいのか。具体的に書き込んだほうがいいと思う。
- (座長) これは鉱物資源とかではなく、観光や景観を言っているのだと思うが。
- (小林委員) まさに公園の資源であって、地下資源とかではない。それを分かるように書いておくべき。
- (座長) こちらが観光資源になると思っているも、地元がそう思わないものや、逆もあり得る。誤解のないように語句は修正する。
続いて、エリア区分・利用区分について。
- (小林委員) P8の下から3行目。多様な利用者というのは分かりにくいので、「多様な利用ニーズや利用形態に考慮しつつ」だと思う。その1行下は「自然体験の質によるエリア区分」～でなく「自然体験の質を考慮したエリア区分」だと思う。必ずしも「よる」ではない。
- (森林センター) P13のマップについて、利用状況報告にもあったが、ボンホロ沼周辺に利用が多いとされていたが、マップではレベルAに設定されている様で、エリア分けでもボンホロ周辺では区分されていないようだが、そういう利用状況があるので、AからBかCに見直した方が良くはないか。
- (座長) 概念図のグリッドで切っているのはあまり厳密に考えないでほしい。カウントする

ときに便利だという程度。

- (中易委員) 想定される利用区分や各エリアの利用区分、現状のレベル、あるべきレベル、と
いろいろな使い方がされている。前々回は少し整理した方がいいと言ったつもりだ
が、特に現状のレベルよりあるべきレベルを下げる地域とは、なぜそうなるのか。
- (事務局) P12の表1は要因の組み立てにも関わるが、各要因を組み合わせるとこうだ
というのが現状レベル。本来こうあるべき、というのがあるべきレベル。必ずしも決
まったものではないので、意見を聞いて位置付けをしていきたい。
- (中易委員) 整理されてないので整理するというのは分かるが、ランクというのはそういうこと
も含めてのランク付けなのか。利用されていないから利用を促進していくという
ニュアンスも含めてなのか。
- (事務局) 先端部地区と違い、場所によっては今まで全く利用されていないところを利用の
分散ということで、例えばガイド付き利用を増やすなどといったことも考えられる。
Aが一番良くてBが悪いというわけではなく、場所によってはBがいいということ
もある。
- (座長) P32に要因表がある。利用形態、利用密度、情報提供、施設整備の問題など
を組み合わせ、多様な利用設定を考えていく。
- (事務局) ABCD とやると A はランクが高いと思われる恐れはある。アルファベットでも
ABCD じゃないものを使うという手もあるが、それをやるといちいち考えなくては
ならない。ABCD は A ランクが上というわけではない。記号でなくてもマークでも
いい。
- (事務局) 今までやってきた作業をもう少し分かりやすいように検討していく。
- (座長) トライアルなので、途中で要因が変わったら変わっていくもの。
- (新庄委員) P33の表1で想定される利用区分レベル案というのが、A から D まであって、共
通要因が明確に書いてある。A は自然環境保護の強い規制、原生的な自然環
境。D に行くに従って規制が緩やかになり、舗装道路などがあって原始性が低
いという様に区分されている。これはレベル A~D の区分はその違いと読めるが、
それでいいのか。その時にP12の表1の中で五湖の歩道は C であるが、B に近
づけるような利用計画を考えていくべきではないか、という提案なのか。
- (事務局) 基本的にはそういうこと。保護のための規制とあるが、国立公園なので利用計
画があり適切な利用のあり方というものもある。中央部地区でそれぞれ利用の
仕方が変わってくる。とりあえず4つのレベルで考えてみてはどうかということ。
- (座長) 表記や表現はまだ検討、分かりやすくするという事も考えられるが、これはまず
トライアルということで施行して修正部分があるということで現在はこれで、途
中で問題点が出てきたらそのときに考えるということでよいか？
- (森委員) 5 - 2 各地域、エリアについて
エリアごとに管理などが挙げられているが、利用区分によって私が評価するのと
若い人が評価するのと違うニュアンスがあると思う。現状に合ったものをもう一
度振り返りながら再検討して取り組むというのが必要ではないかと感じている。
- (小林委員) 組み立ての問題。P14は現状の前提条件に当たる部分で、いきなりこれを書か
れても分かりにくい。P25から各地域の概要が整理されているが、現状はこうだ

から、こうだという書き方のほうが読みやすい。各地域の概要は、問題を書いた上で、だから～ということのほうが分かりやすい。

(座長) 別添1を前に出した方がいいということか？

(小林委員) その方が読みやすい。事務局で判断して欲しい。後ろを読まないと前に戻ってこれないというのはちょっと辛い。

(座長) 別添1参照といった書き方をしてはどうか。前に持ってくると長くなるので、途中でくじけてしまうかもしれない。

(小林委員) P14の工。「利用経路」を入れておいてほしい。これがないとどこを通っているか分からなくなる。調査の項目から全部落ちている。

(高木委員) 全体的に優先順位が既につけられている気がする。P18のカとキでは「利用状況の把握に努め」となっているが、これは「把握する」、という書き方のほうがいい。この辺りで熊との遭遇が既に起こっているので、優先順位を先にして欲しい。

(ウトロ協議会) P19の のイの2行目。貸し切りバスも検討してはどうかという意見もあったが、それはどうなったのか。下のウについて、読み方によっては新築の建物はダメというように読めるが、どうなのか？

(事務局) カムイワッカへの貸し切りバスの運行については、今後検討される可能性はあるが、具体的には検討されていない。

(ウトロ協議会) 今後、検討するのか？

(事務局) 現時点では具体的な検討の予定はない。

(座長) 現在はどうか？

(事務局) 道道の工事が概ね5年間続くので、その間は少なくともシャトルバスの仕組みで続けられると考えられる。

工作物の新築については全ていけないというわけではない。

(座長) これはカムイワッカであって知床全域や海岸部のことではない。

(斜里観光協会) カムイワッカの滝の下にプレハブ的なトイレがあり不似合いなので、改善して景観を阻害しないようにすることが相応しいのではないか。

(座長) 既存工作物についても改善することを考えていいと思う。

(事務局) 現状ではマイカー規制の期間中に、カムイワッカに仮設トイレを設置している。今のところ、これについて具体的な記述は特段していない。ウの記述というのは今の仮設でやっているものまでどうするというものではない。

(斜里観光協会) カムイワッカへの道道は舗装しないという方針になったと私は理解しているが、実際に現状では非常に埃がたまって、自由通行が出てくると沿線の植生が埃によって影響を受けるということになると思う。通行をよくして事故が起こることでもあるだろうが、現実には舗装にしくなくても埃を止めるような施工技術が考えられるのではないか。この中に書かれるべきかどうかは別だが、ぜひ検討していただきたい。

(森林センター) P14し尿対策の検討。携帯トイレについて携行を推奨するというので先端部であったのだが、これは意識的に使い分けたのか。ウトロ、羅臼地区で携帯トイレを扱っているお店がどの程度あるか、分かれば教えて欲しい。

- (斜里町) 先端部の方と用語が違っている点について、現実的に登山口、休憩地点での整備や携帯トイレの推奨も含めて検討していきたい。それほど違うわけではない。携帯トイレの販売については厳密には把握していない。基本的には扱っていないと思う。受け入れ態勢もまだできていないのが実態。今は全て持って帰るという原則。ゴミ箱も数年前に撤去した。
- (座長) これは連動する問題なので、どうやって処理するかということも考えておかないといけない。現地に来てから知った利用者のことも想定しなくてはならない。
- (森委員) カムイワッカの件に戻るが、70 日間という長期のバス運行により訪れる人の安全が確保されるのか？安全対策を謳わなくていいのかということが気になる。
- (網走南部署) カムイワッカを管理しているのは網走南部署なのだが、落石などの危険もあり得る。先週、本局と現地に行ったが、安全対策はこれから検討するという状況。現時点では閉鎖は考えていない。今年はシャトルバス 70 日間ということで全国的に知れ渡っていることなので今から止めるという話も大変なことになる。去年と同じような対応をしたい。これから先については林野庁とも検討しながら、どういことができるのか検討していきたい。
- (羅臼推進協) 羅臼湖入口について、車道に付帯した駐車場の新設は認められないとあるが、最初の頃、駐車帯はどうかという話があったと思う。止める場所がないと霧が出た時など非常に危険。地元からそういう話が出ていたが、ここでは出ていないので、今後の検討の中で安全確保の面から考えてほしい。
- (事務局) シャトルバスのようなものを停車するという話も出ており、それはちょっとした駐車帯を伴うというような検討になると思う。
- (羅臼推進協) 駐車場と駐車帯を分けるということなら理解できる。
- (新庄委員) シャトルバスの導入を検討していくとすれば、それに伴い様々な検討をするということでは理解できるのではないかと。
- (小林委員) P17の上から 2 行目。「魅力が凝縮されている地域」、というよりも「魅力にアクセスしやすい地域」としたほうが良いのではないかと。10 行目、押し付けがましいような表現になっているが、利用者が素晴らしさを知り、満足感を得るために、自然環境や野生生物に配慮するというのがこれまでの趣旨なので、「ともに」ではなく「ために」という表現のほうが趣旨は通ると思う。
- (座長) 語句は検討する。
- (森林管理局) P15の羅臼温泉から羅臼岳の登山道維持補修について、遭難防止の観点で快適性の観点からは行わないとあるが、快適性とは何か。イメージしづらい。
- (座長) 不必要に大きくなく、有効な道標で目ざわりにならず、写真をとるときに邪魔にならないように、小さくても有効なもののほうがいいイメージ。よくある矢印の大きなものはやめようという意味合い。
- (森林管理局) P14のキ、一部登山道の付け替えということは、現在そういうところがあるのか？
- (事務局) 専門家から提案がある場所はある。
- (森林管理局) 既存の登山道改修ということで対応できないのか？
- (座長) そういうところもあると思う。

- (森林管理局) 付け替えが前提なのか。生態系保護地域のコアにもなっているので、安易な付け替えはできないと思う。
- (事務局) 登山道の維持管理について、快適性の向上についての整備はしないというのは、登山道の路面の快適性を求めるような整備はしないということで、道標などは効果的なものを整備するという意味なので、表現を整理する。キの登山道の付け替えについては、現状で湿性の植生の上を歩く箇所があるので、そういったところはすぐ横のハイマツ帯を考えた方が良いという意見があるので、今後意見を踏まえながら検討していきたい。
- (小林委員) 悩んでいるようなので「植生への踏み込み」を、「インパクト、踏圧の減少」と変えて、脆弱な植生についてはそのためにルートの付け替えなどを検討するとしたほうが分かりやすいと思う。
- (座長) 利用のコントロール、利用の心得、施設整備、管理運営、計画の充実についての意見は？
- (小林委員) P22の10行目で、エコツーリズム推進計画については、利用適正化の検討とも大いに関わってくる。もっと早くこの検討会の場に出してほしい。
- (高木委員) メディアや事業者への啓発というのをどこかに入れてはどうか。メディアの影響は大きい。計画に入れるのは難しいかもしれないが、事業者や地域住民、メディアへの啓発ということは利用コントロール、管理運営ということで入れて欲しい。
- (座長) よろしければ次の議題。

(2)その他

事務局説明

平成 16 年度グリーンワーカー事業で行った斜里側の観光船の海域利用と野生生物の影響調査概要等を説明。

【質疑応答】

- (座長) 作業部会でも話したが、環境省からの警告という形でいいと思う。こんなことを繰り返されると自滅行為だと思う。自分で自分の首を絞めているということを理解してもらいたい。
- (ガイド協議会) 斜里側ということで当然なのだが、羅臼側についてはどのように？
- (事務局) 要請文については羅臼側の事業者にも同じようなお願いをしようと思う。現況は調査していないので分からない。
- (ガイド協議会) それは後でお伝えします。
- (事務局) また、知床国立公園で守って欲しいマナーということで、A4一枚紙を配布している。基本的に守って欲しい最低限のルールで、すぐ理解してもらえるようなものを想定して案を作成した。主に利用が多いマイカー規制の拠点であるホロベツやウトロのバスの乗車場、ビジターセンターなどで配布するためのもの。案なのでまだ工夫が必要だが、知床の中央部地区で、一般観光客が行けるような場所をイメージしている。東北北海道地区自然保護事務所という形で作成、配布して必要に応じてホームページなどで掲載する予定。

- (中易委員) ごみは持ち帰りましょうということで、我々は分かるが、ジュースの味を覚えたらなぜ熊が出没するのか、これを一般にも分かるように書いてほしい。
- (新庄委員) 観光船の問題では西表島で同様の問題があるところに行った。カヤックなど、満潮でも干潮でも関係なく行って、干潮では干潟を歩き回って、貝を踏んづけたりして「大丈夫」だと言っている。地元のエコツーリズムをやっている人はそういうことはやっていない。そういうルールを地元でガイドラインを作ったところ、非常に旅行者に評判を得て、そういうルールに基づいてやっている方に人気が出てきた。旅行者もそれに参加し西表のマングローブを守りながら理解を高めるというのを見てきた。知床でも環境省がガイドラインを作るのではなくて、地元がそういうガイドラインを立ち上げて、自分達の漁船を使って地元を紹介するというプロのやり方を作ってもらうことが重要ではないかと思う。マナー、ルール案も環境省で作ったが、これも知床以外でも通じるようなものなので、ヒグマや海岸の崖、植生など、他では大丈夫でも知床ではダメなんだという知床らしいルール、マナーを立ち上げていただけたら、と思う。
- (小林委員) 地元で「私たちはこう守っています。だから来る人もこうしてください」というほうが、より分かりやすいと思う。
- (座長) 地元では～というのはいいい例だと思う。効果的なパンフレットの、どういう形になるかは分からないが、ルールのPR用のものを作りたい。私も含めて事務局と相談して、次にもっといい案を提示できるようにしたい。
- (事務局) このチラシは近日中に現場で幅広く配る予定。利用の検討も引き続き行う。分かりやすく、ポイントを絞った普及版を9月までに、できるだけ早い時期に作成したい。
- (座長) 次回の日程案については、
- (事務局) 基本計画案は9月一杯で仕上げたい。次の検討会は8月中に開かせていただければ有り難い。8月上旬辺り。
- (座長) 9月中にはまとめなくてはならないので、どうしても8月末だと遅い。上中旬で何とかしなくてはならない。その辺りでご都合を聞く。後ほど連絡を。

(文責:事務局)